

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年7月14日(水)発行  
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

# 手をたずさえて

## 使用者に大きな責任が存在する～情報モラルを考える

先日、スマホ等の情報通信機器やSNSに関する調査を実施しました。自分用の情報通信機器については、スマホ158人【52.8%】、ゲーム機127人【42.5%】、タブレット84人【28.1%】、パソコン23人、音楽プレーヤー34人、携帯電話19人の生徒が所有していることがわかりました。

SNS (Social Networking Service: 友だちや共通の趣味を持つ人たちが、メッセージや画像などを通じて交流するコミュニティサイト) を使ったことがある生徒は89%でLINE、TikTok、チャット、インスタグラム、ツイッターなどのアプリの

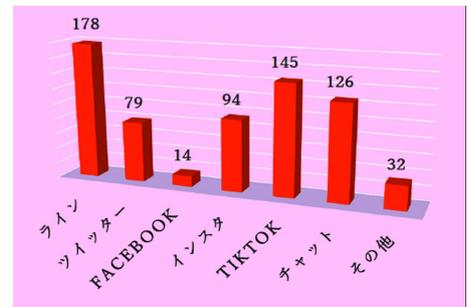
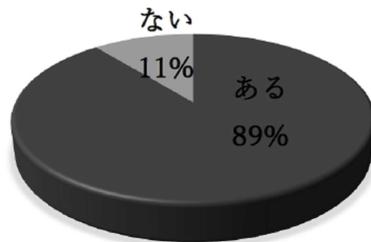
使用が多くなっています。1週間の使用時間では、1～10時間と答えた生徒が59%でしたが、10時間以上の生徒が22%に達していました。SNSに関する家庭内ルールでは、52%の生徒が「ルールが決まっています、いつも守っている」と回答しています。ただし、ルールがないと答えた生徒が37%いました。SNSでの友人等とのトラブルについては、「仲間外れにされた」「もめて話をしなくなった」などがありました。

### 『情報モラルは、ゆりかごから墓場まで』

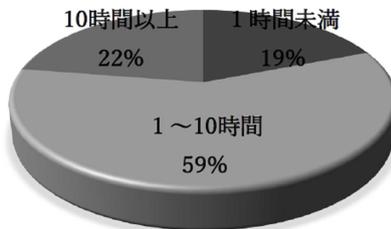
右の掲載したのは、平成29年11月29日に郡山市のビックパレットふくしまで開催された「ふくしま高校生スマホサミット」で発表された『ふくしま高校生スマホ宣言』です。前任校で実施したSNS講習会での講師の先生は、この4つの宣言から話を始められました。その講習会で印象に残ったお話をいくつか紹介します。

### SNSに関するアンケート調査結果 6.29～7.2 実施

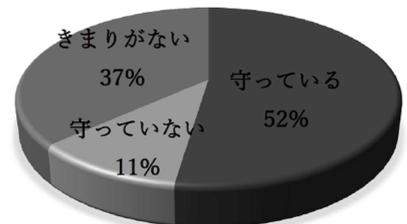
- 1 SNSを使ったことがありますか。 2 どのようなアプリですか。(人)



- 3 週に何時間使用しますか。



- 4 家庭内でのルールを守っていますか。



### 『ふくしま高校生スマホ宣言』

- ① 『考えて 直接話す 大切さ』  
コミュニケーション不足によるトラブルを防ぐ
- ② 『いい写真 それは載せてもいい写真?』  
写真や言葉を投稿する前に立ち止まって考える
- ③ 『MYスマホ 親に預けて NO!スマホ』  
スマホに依存しすぎて友達や時間を失わない
- ④ 『SNS 出会いの裏側 SOS』  
ネットに潜む危険から自分で自分を守る



■ 『IoT』(Internet of Things) という言葉のとおり、あらゆるものがインターネットにつながる今、便利ではあるが、様々な個人情報が履歴として残るとともに、つながればネット企業等にデータを取られているという現実があること。

■ インターネットへの投稿が、被害者にもするし加害者にもするということ。

■ 『デジタル・タトゥー (入れ墨)』という言葉の通り、インターネットに投稿したものは一生消すことができない。だからこそ、情報発信は自分の将来をよく考え、覚悟をもって行わなければならないということ。

■ 『情報モラルは、ゆりかごから墓場まで』という言葉。情報モラルはインターネット利用者全員が身につけなければならないこと。情報通信機器を使う者としての大きな責任が存在するということ。

## 情報通信機器と賢く付き合うためには…



情報通信機器はうまく活用すれば、とても便利で有効な手段となり得ますが、一歩間違えると事件やトラブルにつながってしまう危険性を持っています。「書き込みやメールでの誹謗中傷やいじめ」「個人情報の流出」「課金等のオンラインゲームでのトラブル」「架空請求や詐欺」「ゲーム依存・ネット依存」「ながら操作による事故」など、様々なトラブルが発生しています。また、ある県での調査では、スマホ等を使っている時間が長いほど、テストの正答率が下がっているという結果が出ました。スマホ等の使い過ぎが学習効果を下げってしまうという現実もあります。

7月19日(月)には、郡山警察署員の方を講師としてお招きし、SNS講習会を実施します。夏休みを前にして、情報通信機器と賢く付き合うためには何が大切なのかを、みんなで考えてみたいと思います。

### 保護者の皆様へ

### 情報通信機器の使い方・ルールを考え直してみてください!

今回の生徒へのアンケート調査実施を、親子で情報通信機器の使い方やルールを考え直すいい機会にしたいと思っています。SNS講習会を通して考えたことなども是非聞いてみてください。

#### 1 子どもにスマホや携帯を持たせるときは目的を明確に

「友だちが持っている」「テストの点数が上がったから」などの理由だけで持たせないでください。ただのプレゼントやご褒美としてではなく、「何のために必要なのか」「どのように使うのか」を話し合うことが大切です。また、子ども自身に責任を自覚させるために、インターネットの特徴や有害情報などの危険性、個人情報を守る必要性などを説明し、本人に危機意識を持たせるようにしましょう。  
※ネットに接続できるゲーム機や音楽プレーヤーでも、スマホ・携帯と同じような問題やトラブルが発生していますので、ご注意ください。

#### 2 有害情報へのアクセスを制限するフィルタリングの活用

スマホなどの個人情報を抜き取るなど不正な目的のためにつくられたアプリや有害なウェブサイトを通じ、未成年者がネット犯罪などのトラブルに巻き込まれるケースが少なくありません。そんな危険な情報へのアクセスをブロックするのが「フィルタリング(アクセス制限)」です。保護者が許可したサイトだけにアクセスできるようにしたり、カテゴリごと、時間ごとなど細かい設定が可能です。販売店と相談しながら、最適なフィルタリングを行ってください。

#### 3 親子で話し合っ、家庭のルールづくりを

今回のSNSアンケートでは、家庭内のルールがないと回答した生徒が37%でした。子どもが、スマホや携帯電話で上手にインターネットを活用するためには、家庭のルールをつくる必要があると考えます。一方的な押しつけではなく、子どもと一緒にルールづくりの必要性から、利用目的や利用場所・時間帯を話し合っ決めてすることが大事です。もし、それらのルールを守れなかったときは、スマホや携帯電話の利用を一時禁止するなどのペナルティも決めておくと、ルールを守るための責任感が本人に生まれます。いつも目につくところにルールを張っておくなどの方法もあります。

また、スマホや携帯電話などの利用状況については、子どもと折に触れ話し合い、問題がないか確認することも大切です。

##### 【ルールの例】

家庭でのルールの例です。参考にしてみてください。

- 利用する時間を決める。
- 利用する場所を決める。
- サイトに登録する場合は事前に親に相談する。
- むやみに自分の電話番号やアドレスを他人に教えない。
- 他人を傷つけるような使い方をしない。
- 送信者不明のメールや知らない人からのメールが来た場合は速やかに親に報告する。
- 週に1度、利用状況を親と確認する。
- ルールを破ったら、使用禁止とする。



コンピュータ、ゲームでは失敗してもリセットボタンを押すと、再びもとの状態に戻ることができます。しかし、現実の世界ではリセットできない取り返しのつかないことがたくさんあるということも教えていく必要があります。